

# 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年10月30日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	「4677700116」
法人名	アール・エイチカンパニー株式会社
事業所名	高齢者グループホームゆうとみい
所在地	鹿児島県肝属郡南大隅町根占山本2547-1 (電話) 0994-28-1755
自己評価作成日	平成30年9月20日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成30年10月19日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所が特に力をいれている点

- ・「市民救命士のいる事業所」として10名の普通救命士資格取得者(職員)を確保し地域貢献を図っている
- ・緊急時の体制強化(利用者の安全確保に向けて、系列の医療機関との24時間連携体制の強化に努めている)
- ・当施設に認知症ケア専門士が3名いる、これから増加していくであろう認知症患者への対応として質問も増えて来ている、少しでも困っている方々のお力になれるよう努めていきたい

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(地域との関わり)

○母体医療機関は、地域医療に取り組む傍ら、利用者の健康管理や急変時、重度化した場合の対応や看取りにも熱心に取り組んでいる。また、地域住民の信頼も厚く地元根付いている。医療機関は、ホーム近隣に位置しているため急な往診にも対応、他科への診療情報提供や連携を図り、ホームでの生活を安心して送ることができるよう支援している。家族は、入所当初から看取りまで希望される方も多く、医療連携やホームの対応に期待している。職員は、地域の方々を事業所の恒例のイベント(夏祭り・ソーメン流し)に招待し地域交流している。また、地域と日頃から気軽なお付き合いをしており、米や野菜などの差し入れも多く、男性職員が地域の会合などに参加し三味線を披露するなどして地域との関係性を深めている。年2回の避難訓練では、消火訓練に地域の方々も熱心に取り組むなど参加者も多い。非常災害時は、母体医療機関やホームがシェルター機能を発揮できると地域に期待されている。

(職員の関係性)

○代表者は、職員一人ひとりと個人面談したり、会議や申し送り時などで意見や提案を聞く機会を設けて、出された意見をサービスの質の向上に繋げている。職員が適材適所で無理なく勤務ができるよう職場環境の整備に努めている。職員の関係性が良好で、離職者もほとんどなく長期に勤務する職員が多い。

ゆうユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	全ての職員が内容を理解し理念の共有を実践に活かせるよう努力している。	理念は、共有スペースに掲示したり、パンフレット、重要事項説明書に掲載し契約時などに説明している。職員は、勤務時に理念を意識した話し合いを行い、サービスの質の向上やケアの実現に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設14年目を迎え地域の方々との交流も当たり前になっている・涼しくなったらそうめん流しを予定している。	自治会に加入し、管理者が地域の総会や会合に積極的に参加したり、役職を果たし地域の情報収集をしながら関係性を深めている。ホームのイベントには、毎回地域の方の参加があり、米、野菜などの差し入れも日常的にある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	最近は美容室などで話がかみ合わない人が増えてきているがどのように対処したらいいのか質問されることが増えた専門士として勉強したことが職場以外で役に立っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での話し合いを通じて役場・自治会等今後の認知症への取り組みやサービスをどう活かしていけばよいか考え中である、田舎は車の便が悪く思ってもすぐ相談とは難しいものがある。	遠方に居住される家族や高齢の方も多く、家族代表制を敷いているが、家族との情報交換の場が少ないと管理者は感じている。今後は、参加可能な家族全員に声かけしながら、会議メンバーについても活性化が必要と検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所での出来事などを通じて気軽に実情などを伝えられるようになった今後高齢者だけではなく協力関係を築いていきたい。	市担当者とは、災害時の避難場所についての協力依頼があったり、社会情勢や介護の状況などの情報交換をおこないつつながら、協力関係を築いている。職員は、町や社会福祉協議会からの研修会の案内を受けて積極的に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が「拘束をしない」を基本に日々努力している、一日中歩き回る人にはその都度見守りに追われている、そして「介護優先」が我がグループホームの合言葉である。	身体拘束指針があり、母体医療機関と合同で研修を実施している。夜間帯の家族の面会に配慮し、施錠せず利用者や家族がゆっくりと面会できるよう支援している。法改正もあり、指針の整備をおこなっているが、職員同士、身体拘束に該当していないか日々のケアを見極めた上で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について地域外の研修を受けているが「虐待とは何か」という施設内の研修も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に対する研修は受けたり施設内でも研修を行っているが成年後見制度を必要とする人がいないのでふみこんで学んでいるとは言えないがそうゆう方を引き受けたときに対して心構えは出来ていると考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結又は解約・改定等の際は利用者、或いは関係者には不安のないよう十分な説明を行うとともに理解納得の出来るように心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見、要望等に職員は耳を傾け、出来る限り運営に反映できるよう皆で話し合っている。	利用者や家族とは、面談や行事、家族会の折に直接意見や要望を聞き取るようにしている。出された意見は、職員全員で話し合い、サービスの見直しやケアに活かすようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は職員の意見を食事会等を通じて聞く機会を設け必要な提案を取り入れる努力をしている。	職員は、2ヶ月に1回程度の食事会や2年ごとに職員旅行などで親睦を深めたり、ユニット間の協力体制があり、相互に良好な関係を築きながら、情報を共有するようにしている。人間関係も良好で離職もほとんどない。代表者は、資格取得に力を入れ給与面に関しては評価基準を定め、参考にしながら職場環境・条件を整備している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は努力を惜しまない人、勉強を勤務に反映させ向上心を持って働いている人等を把握しそれに見合った給与水準等を決めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>介護に携わる職員一人一人がケアの研修を受け出来る事・出来ない事の把握に努め日々成長出来るよう心掛けている。また職員がストレスをためこまないような取り組みをしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>町等の勉強会、サービスの質の向上の為に講習等を通じて認知症についての交流会が出来るよう努力している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所を機会に本人の困り事、不安な事などに傾聴しながら安心の確保をして新しい関係づくりが出来るよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所される方のご家族に対し本人だけではなく家族を含めての困りごと、不安な事などが少しでも減っていくような関係づくりを作れるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その一人ひとりの必要としている支援を見極め今までなかったサービスも含めどうすれば本人に合ったサービスを見いだせるか工夫している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護するのではなく人生の先輩として接しわからないところを指導していただく家族としての関係を築けるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者本人だけでなく職員は本人の家族も含めて支え合う体制づくりに努めている、時間はかかるが少しずつ絆が出来てきている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長い間の生活空間が少しずつ変化していく事への不安などがおおきくならないように、又馴染みの方との縁が切れないよう施設へ遊びに来られるよう支援をお願いしてる。	職員は、面会者が利用者の共通の知り合いだったりすることもあるため、面会の度に対象者だけでなく顔みしりの利用者にも声かけを依頼している。職員は、墓参りに同行したり、季節ごとの地域の行事に足を運んで関係継続に配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士同じソファでいて難聴の方同士で話が進んでいるが耳を澄ませば全く話がかみ合っておらず最後はうまく話がまとまる事もあり驚かされる。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた方のご家族が新米を1俵持ってきて下ったり畑物を下さったり今もお付き合いが無くなったわけではない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	難聴の方々が多く職員の言葉が届きづらいこともある、希望どおりにしているのか困難な時でも少しでも本人本位に努めている。	入所時には、情報が薄い場合でも入所後、利用者の言動や暮らしぶり、家族からの情報、職員の気づきなどを含め情報収集し、真の思いに触れその思いを共有できるよう申し送りや担当者会議などで共通認識を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各自現在の生活では一人暮らしが長く、家族でもわからない方が多い入所前の馴染みの暮らし生活環境の把握は難しいが、日々の動きで今の状態把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方はその日の心身状態でも変わってくるのが一番いいかその日その日に把握するしかないそう思って介護に当たっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	認知症の方がより良い暮らしをして行くためには統一ケアが第一であるそれぞれが意見をだし本人にとって何が一番いいのかよく話し合い介護計画を作成している。	本人の自立に資する介護計画書になるようモニタリング結果を踏まえ職員全員で話し合い、利用者や家族に説明したり、話し合っている。職員は、目標達成のため定期的なモニタリングの実施、必要に応じて計画の見直しなど柔軟に取り組んでいる。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録から多くの事を実践に繋げており職員はそれぞれの内容を共有し介護の計画の見直しにも利用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の本人の状況、日々変わる家族のニーズ等を考えながら出来る限りその人のその時の状態を把握しかくいつにならない介護を目指している。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前のつながりが途切れないよう他の利用者の面会者が知り合いであれば必ず声掛けをしていただきいつでも豊かに過ごして頂けるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係はスムーズであり他の専門医との連携も職員・管理者・施設長とのバトンタッチでもうまくいっている町外も多いが職員に負担が重ならないよう支援している	母体の医療機関とは、オンコール体制が取られ、24時間医療連携が図れている。職員は、緊急時や定時の他科受診に付き添い、随時家族に報告して適切な医療が受けられるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日々の中の気づきを共有しお互いで相談し施設長・管理者を通じてかかりつけ医への受診の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入院が安心して送れるよう職員も家族と合流し、病院関係者と密に相談し早急に退所出来るよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期をどの様にしたらいいのか家族や本人と相談し事務所で出来る事をよく説明し統一ケアを通してチームで支援していく。	管理者は、現在、看護体制がないため、重度化や終末期に向けた指針は、内容の見直しが必要と考えており、随時の意志確認も文書化していく方向で検討中である。これまでに看取りの実績も多く、主治医の理解も厚く職員も看取りに前向きに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員はほとんどが応急手当の初期対応の訓練を定期的に行い実践力を身につけて対応出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害対策については自治会・役場の方々とも運営推進会議又は自治会長も参加しての事務所での話し合い火災訓練等を通じて地域の方々との協力体制を築いている。</p>	<p>土砂崩れ危険区域に指定されている地区ではあるが、火災、水害などの避難訓練は、地域の協力を得ながら定期的実施している。災害時の備蓄は、日常的に食材を3～4日分確保、防災グッズも備えてあり、点検、自主訓練を実施するなどして意識づけしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年配者ほどプライドの高い方が多い人格を尊重しながら誇りやプライドを傷つける事のないよう常に心掛けている。	利用者が誤解を招くようなことがないように業務伝達などは、個人情報漏えいに配慮している。瞬間の記憶がない方もおられるため、排泄後はありのままを確認してもらうなどして、本人の安心感を担保し、利用者の尊厳を一番に考えケアしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	失語症の方も入居されているので本人の動作や顔の表情などから本人の言いたいことややってほしいことを汲み取り希望に近づけるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念にうたっているように一人一人がのんびりそしてゆっくりマイペースでの生活を応援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	施設では誕生日・クリスマス等々洋服の少ない方へは衣類のプレゼント等をして身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事などミキサー食の方々でも一つ一つ内容を説明して季節の解る物を作っている、そして食事の準備後かたづけなど出来る範囲でお手伝いをお願いしている、笑顔がみられる。	担当の職員が献立を作成しユニットごとにメニューが異なる。地元のスーパーや道の駅で買い物をしたり、地域の方が米、野菜をよく差し入れして下さる。家族会の時は、弁当を取ったり、花見の弁当、出前、手作りおやつを楽しんでいる。夕食担当の調理専任が配置されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量・栄養バランスは一日を通じて各自にあった内容で体調やペースに合わせた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でやれる人も終わった後のチェックを又出来ない人には職員が本人の口腔状態に応じたケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のサイクルの把握で出来る限りトイレでの排泄を支援している時々ずれて失敗もあるが本人のプライドを傷つけないよう注意しオムツ減らしを心掛けている。	布下着に尿取りパットを当てる方が数名おられ、昼夜問わずトイレで排泄しポータブルトイレは一人もおられない。職員は、個別にパットの当て方について熟知し、コスト面についても配慮するとともに、家族の満足感につながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多いものを選び料理をしているまた牛乳など出来る限り薬に頼らない便秘の予防に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	一人一人のその日の体調により入浴或いはシャワー浴になったりするが本人の希望に応じて対応し、職員は声掛けを増やし利用者は話す機会を大いに楽しませられている。	重度化し、浴槽に入る方は少なくなったが、シャワー浴でかけ湯を十分に行いながら、入浴して頂いている。職員は、体力面や本人の希望、必要性を考慮していつでも入浴ができるよう個別支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼でもソファで寝られる人・部屋で横になられる方・テレビを見られるひと、のんびりされている時々カラオケされたり隣の方と話されたりされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の目的・用法・用量を常に管理し病状の変化を見逃すことのないよう努力している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特に長い間仕事に忙しかった方々が多くお手伝いをお願いすると笑顔で参加され役割の大事さに気づかされることがある、思わぬ特技を披露されて拍手喝采職員も参加する事もある。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出かけるのを嫌がられる方もあるが施設長が自分の車で出かけるとき3・4人乗せて今は彼岸花など見学に行くとともに喜んでくださる、しばらくするとすっかり忘れられることも多々あるがそれでも見た時の笑顔が嬉しい。面会時外出も支援する	天候や季節によって、戸外の散歩や少人数での個別の外出支援を実施している。また、家族の協力をもらいながら外出の機会が得られるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を使う意味の大切さが損なわれないように支払いの出来る方は家族と相談してお金を所持していただきその時々を支払っていただきまたサイフに追加している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族との電話は難聴の方が多く会話が成り立たない方や話の流れがつかめな方等で直接は出来ないハガキにかけただけ書いていただきお礼状など支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共同空間での混乱を招くことのないよう目に優しい光・色等に配慮し季節によっては花等で季節感を取り入れ居心地よく日々を送れるよう支援している。</p>	<p>広々としたリビング、採光もありすっきりとした空間である。また、ウッドデッキへ出入りができるなど解放感がある。大きめのソファが設置してあり、利用者がうとうと夢見心地に過ごされている。温度や湿度管理もされ、掃除も行き届くなど清潔感のある共有空間である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共同空間ではそれぞれに自分の好きな空間が出来ており一人一人が自由な時間を過ごされている又友達との会話が難しい方は職員が対応したりして寂しさのない時間作りを支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各自の居室は入居前の本人の馴染みの品物を持ち込まれたりして生活感になるべく変わることのないよう工夫している。</p>	<p>居室は、本人の身体機能や認知症の病態などに応じてベッドだったり、床に布団やマットレスを敷くなど形態が異なるが、安全を第一に検討している。また、家族写真やぬいぐるみ、毛布などの使い慣れた物を持ち込み居心地よく過ごしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>出来るだけ自立支援に繋がるように各利用者の解る事そして出来る事を見極めそれに沿った生活が送れるよう日々努力している。</p>		



V アウトカム項目 ゆうユニット

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない